



No. 394号

2024年11月12日発行

沼津市手をつなぐ育成会

〒410-0822 沼津市下香貫宮脇323-4

尾藤 正弘 (会長宅)

TEL: 933-3922 FAX: 933-7350

尾藤携帯電話: 090-8543-2341

尾藤E-mail: bito3boy@yahoo.co.jp

沼津市手をつなぐ育成会・会報 2024年11月号



11月中旬の季語は「落葉の候」や「向冬の候」を使用致しますが、この会報を作成している11月上旬の最高気温は25℃前後で紅葉はほぼなし、秋を感じないまま冬に向かうのでしょうか…季節感がない昨今ですが、行事で季節を皆さん感じてください！

11月は当会として大きな行事が続きます。「親子バス旅行」は晴天に恵まれ、65名の参加者は大きな荷物を抱え笑顔で自宅に帰っていかれました(笑)。次は「育成会バザー」(会場: 毎年恒例の沼津市役所玄関前)です。お手伝いは当日の飛び入りもOK、お客さんで来る場合には小銭とエコバックを持ってお越しください。寒暖差が激しい折、くれぐれもご自愛ください！！

令和6年度 東部地区知的障害者相談員等研修会

令和6年10月29日(火)、サンウェルぬまづ大会議室にて「令和6年度 東部地区知的障害者相談員等研修会」が開催され、石川県手をつなぐ育成会・藤井優会長から『災害時にできること～育成会の視点から考える～』の講演をいただきました。以下、静岡県手をつなぐ育成会東部地区連合会の佐藤会長がAIでまとめた文章を若干修正させていただきます掲載致します。誤字や文脈が若干違っててもご容赦ください！

藤井(以下、敬称略)は能登半島地震に関する講演を行い、被害状況や避難の様子、障がい者への対応などについて報告した。また、災害時の通信手段やグループホームの建設に関する課題、そして地震と水害の被害状況についても講演した。最後に、災害時の対応策や避難行動要支援者名簿(以下、「要支援者名簿」という)の機能性、BCPの実効性、さらにコロナ禍でのグループホームの対応事例についても言及した。

【次のステップ】

- ・ 育成会: 会員の安否確認体制を早期に整備する
- ・ 育成会: LINEなどのSNSを活用した連絡網を構築する
- ・ 行政: 要支援者名簿の管理と活用方法を見直す
- ・ 事業所: 災害時の利用者の送迎や受け入れ計画を策定する

- ・ 育成会：地域の防災訓練に障がいのある子どもと一緒に参加する
- ・ 行政：福祉避難所の設置と運営方法を再検討する
- ・ 事業所：BCPの実効性を高めるため、定期的な見直しと訓練を実施する
- ・ 育成会：グループホームの増設に向けた取り組みを強化する
- ・ 行政：福祉的トリアージの実施体制を整備する
- ・ 事業所：災害時の職員の確保と支援体制を構築する
- ・ 育成会：災害時のボランティア派遣に関する方針を検討する

【講演要約】

＜自己紹介など＞

藤井は石川県手をつなぐ育成会の会長として、能登半島地震に関する講演を行う。自己紹介で、警察官を退職後、社会福祉法人松の実福社会の理事長を務めていることを説明する。藤井は能登半島の地理と文化についても触れ、特に「ボラ待ちやぐら」という伝統的な漁法について説明する。

＜石川県の被害状況①＞

藤井は石川県の育成会の状況について報告し、会員数が約1200名であることを説明する。地震による被害状況や避難の様子を詳述し、特に能登地方の被害が大きかったことを伝える。障がいのある人々とその家族の避難状況について触れ、多くの家族が地元の公民館や学校などに避難したことを報告する。また、ある72歳の男性会員の具体的な避難経路を紹介し、帰省していた被災地から白山市（石川県南部に位置する市）のグループホームまでの困難な帰還の様子を説明する。

＜能登半島地震の影響①＞

藤井は能登半島地震の影響について報告し、地域の特徴や避難所の状況、障がい者への対応、福祉避難所の課題、そして日中支援事業所の再開状況を説明する。地震後、多くの集落が孤立し、インフラの被害や通信の遮断により、行政の全体把握が困難だったことが指摘される。避難所では障がい者への配慮が不十分な場面もあり、福祉避難所の機能が十分に発揮されなかった一方で、3月には多くの日中支援事業所が制限付きで再開したことが報告される。

＜障害者支援施設の現状＞

藤井は障害者支援施設の現状について報告し、地震後の利用者減少や職員不足の問題を指摘する。グループホームの状況や、災害時の対応の難しさについても言及し、育成会として会員の安否確認が最優先事項であると強調する。また、日中支援事業所が障がい者の重要な居場所であることを指摘し、災害後の施設再開の課題についても触れている。

＜スマートフォンによる災害対応＞

藤井は災害時の通信手段としてスマートフォンの重要性を強調し、特にLINEグループの有効性を指摘する。また、要支援者名簿や個別支援計画の課題、避難所での福祉的トリアージの必要性について言及する。藤井はグループホームの有用性も指摘し、被災後の需要増を報告している。

<グループホームの建設と待機者>

藤井はグループホームの建設に関する消防法の制限や、能登地震後の高齢者の避難状況について説明する。全国的にグループホームの待機者が多い一方で、地域居住支援事業が進んでいないことを指摘する。藤井は、グループホームの増加が「親亡きあと」の問題解決に寄与する可能性を示唆し、最近の事例を挙げて地域にグループホームが必要であることを強調する。

<能登半島地震の影響②>

藤井は能登半島地震と豪雨災害の影響について報告し、被災地の現状と課題を説明する。被災者の心理的影響や二重被災の困難さ、ボランティア活動の課題などが言及される。最後に、防災の重要性と近隣住民との関係づくりの大切さを強調し、共生社会の実現に向けた取り組みの必要性を訴える。

<石川県の被害状況②>

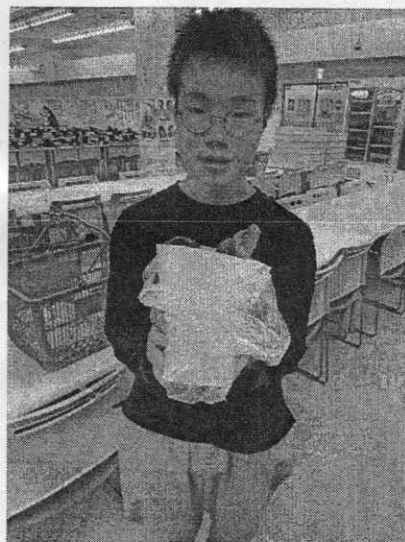
藤井は石川県での地震と奥能登豪雨の被害状況について報告し、育成会としての義援金活動や会員への支援について説明する。被災者への連絡や義援金の配布に苦労したことが述べられ、行政との連携や避難所での対応についても触れている。

<災害時の対応計画>

藤井は災害時の対応について議論し、要支援者名簿の機能性や、LINEを活用した情報共有の有効性を指摘する。また、事業所と保護者間の連絡体制の重要性や、BCPの実効性について意見を述べる。最後に、コロナ禍でのグループホームの対応事例を共有し、様々な状況を想定した計画の必要性を強調する。

※ 災害時に役立つ「携帯トイレ」（別紙）の情報を提供させていただきます。

親子バス旅行



今回初めて育成会のバス旅行に親子で参加させて頂きました。前年度に参加した同年代の子供を持つお母さんから、「良かったよ。」と聞いたのがきっかけです。旅行当日の朝、大型バス2台が待っていたのにまず驚きました。こんなに参加する方がいるのか！と同時に、同じ境遇の方がこんなにいるんだと、仲間意識的な安心感が生まれました。参加した息子はずっとニコニコしていて、普段では味わえない団体旅行を満喫している様子でした。天候に恵まれ、大きな窓からの景色は格別でしたし、ランチバイキングでは「美味しいね」「沢山食べるね」など、和む会話と共に、ご飯を作らないでお腹いっぱい食べられる幸せを感じまし

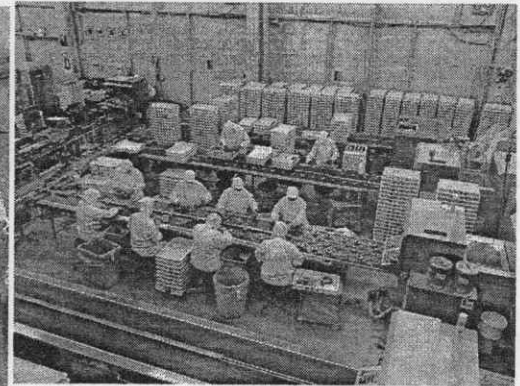
た。バス旅行は駐車場に悩まなくていいし、道に迷う事もない。ガイドさんが自分なら調べないようないろんな話をしてくれる。帰り道も夫に気にせず寝てていい…（笑）。

とっても楽しかったです。普段、息子と2人で過ごす事が多い日々気分転換を与えてもらいました。また来年が楽しみです。きっと回を重ねるごとに顔見知りも増えて、益々楽しくなりますね。みなさん、またお会いしましょう♪

佐野靖子（佐野太郎・母）



河口湖フラワーガーデンにて（左が1号車、右が2号車）



↑ 上が信玄餅の工場見学
← 左がクロワッサン、
← 右が野菜の詰め放題

お知らせ

手をつなぐ育成会バザー（詳細は、前月号のチラシをご覧ください）

日時： 11月23日（土・祝日）9：30～12：00

会場： 沼津市役所玄関前ピロティ・玄関東側広場

理事会	12月10日（火）19：00～	サンウェルぬまづ	3階共用ミーティングブース
会報印刷	12月 9日（月）13：00～	〃	3階障がい者活動交流室
事務局会	11月26日（火）19：00～	〃	3階可動仕切り会議室